

平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書

1. 学校概要

学校名 豊橋市立豊南小学校 (※正式名称を記載)

種 別 保育園・幼稚園 小学校 小中一貫^{※注1}

中学校 中高一貫^{※注2} 高等学校

教員養成大学 専修学校、各種学校

特別支援学校

その他 (例：小中高一貫)

※注1 義務教育学校を含む ※注2 中等教育学校を含む

所在地 〒441-3212

愛知県豊橋市東赤沢町字西横根 130 番地

E-mail tonami-e@toyohashi.ed.jp

Website www.tonami-e.tonami.ed.jp

幼児児童生徒数 男子 69 名 女子 71 名 合計 140 名

幼児・児童・生徒の年齢 6 歳～11 歳

2. 報告期間

平成 29 年 4 月～平成 30 年 3 月

3. 活動内容

(1) 活動の概要

当校は、「豊かな情操とたくましい体を養い、自分の考えで実践できる子を育てること」を学校理念として、ESDを学校理念を実践するための手段と捉え、ESDの実践を通して 仲間や地域と関わりあう力の育成を目標とした。

具体的には、たけのこフェスタ、家族の木を柱に、①地域の環境に関わる活動 ②農業に関わる学習 ③福祉に関わる教育を行った。

① 地域の環境に関わる活動

当校の周りには畑が広がり、森林、竹林といった自然も多い。学校にも森林、竹林が隣接しており、ここで子どもたちはさまざまな活動をしている。

地域の方々との交流を楽しみながらの会である「たけのこフェスタ」では、児童が学校の竹林でリコーダーの演奏や合唱などを行うほか、PTAが調理したたけのこご飯やみそ汁を味わう。「となみっ子忍者村」は竹林の中でのおにごっこやゲームで、児童が企画・運営している。「家族の木」は隣接する果樹園にて1世帯で1本の果樹を育てている。子どもたちは定期的に観察したり、世話をしたり、家族で話題にしたりしている。

② 農業に関わる学習

当校には水田があり、5年生がPTAの協力を受けながら稲を育てている。春に田植えをし、秋には稲刈りをする。刈った稲は脱穀機を使って脱穀をする。収穫された米は翌年度のたけのこフェスタのたけのこご飯の材料となるので、子どもたちは収穫量に関心をもちながら活動をしている。

③ 福祉に関わる教育

豊橋市内にある社会福祉法人さわらび会の、福祉村の施設利用者で構成される「福祉村キャラバン」が来校した。車いす、目隠し歩行などの体験や、太鼓の演奏などの交流を通して、児童たちは福祉について知ったり、障害のある人との関わりについて考えたりした。



(2) 活動の詳細

① 活動内容

※チェック事項 1-2, 2-1 に対応

ア. 活動分野 (複数選択可)

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 環境	<input type="checkbox"/> 2. エネルギー	<input type="checkbox"/> 3. 防災	<input type="checkbox"/> 4. 生物多様性
<input type="checkbox"/> 5. 気候変動	<input type="checkbox"/> 6. 国際理解、文化多様性	<input type="checkbox"/> 7. 地域の伝統文化、文化遺産	<input type="checkbox"/> 8. 人権・平和
<input checked="" type="checkbox"/> 9. 健康・福祉	<input checked="" type="checkbox"/> 10. 食育	<input checked="" type="checkbox"/> 11. 持続可能な生産と消費	<input type="checkbox"/> 12. 貧困
<input type="checkbox"/> 13. エコパーク	<input type="checkbox"/> 14. ジオパーク	<input type="checkbox"/> 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED)	
<input type="checkbox"/> 16. ジェンダー平等	<input type="checkbox"/> 17. その他()		

イ. 活動を通して育みたい資質や能力 (複数選択可)

<input type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力	<input type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 多面的、総合的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度	<input checked="" type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度
<input checked="" type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度	
<input type="checkbox"/> 8. その他(自由記入)	

ウ. 活動時間 (複数選択可)

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 教科の時間	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 特別活動等	<input type="checkbox"/> 4. クラブ活動
<input checked="" type="checkbox"/> 5. その他(放課)	

エ. 使用した教材 (書籍、ウェブサイト、パンフレットなど具体名)

学校に隣接する竹林、森林、果樹園、水田 等 『発達障害の子の脳を育てる忍者遊び』 柳澤弘樹 講談社
--

- ② ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程（指導計画）にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。

※チェック事項 1-2, 1-3 に対応

教育課程の中では、すべての教科や活動において、ユネスコスクールとしての活動が関連しているという意識で教育活動が行われている。顕著なのは総合的な学習の時間や特別活動での森林、竹林の活用である。3年生では「豊南の自然大発見」として竹林・森林で遊んだり、整備したりしている。4年生ではそれを発展させて植物、生物の観察をしたり、自然を守るにはどうするか考察する。このように、指導計画の中にユネスコスクールの理念を体現した活動が組み込まれている。その他、5年生は隣接する水田を活用したり、全校で果樹園の整備をしたりと、本校ならではの活動をしている。それぞれの場面で、主に担任の教師が児童の指導をするほか、関わる教師全員で協力、改善に取り組んでいる。

- ③ 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。

※チェック事項 1-4 に対応

教育課程の中に活動を組み込むことで、各学年の担任の教師は責任をもって活動の実践に取り組むことができている。また、小規模学校の利点を生かし、職員間での意思の疎通がしやすく、全校体制の活動にも個々に負担がかかりすぎない体制になっている。

当校の活動の核となる森林・竹林、果樹園や水田については、用務員だけでなく、PTA の協力も厚く、農業部を中心に積極的に整備に力を入れてくれており、児童は快適な環境で活動に取り組むことができている。

例年、福祉施設との交流や、環境に関する出前講座など外部組織による学習の機会も確保している。

- ④ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価（内部/外部）の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。

※チェック事項 1-5 に対応

個々の教育や活動を評価することで活動の質の向上を図っている。例えば5年生の総合的な学習の時間では水田を活用して田植えから米の収穫、脱穀まで行っているが、それぞれの活動毎に担任は児童の様子を観察し、活動後に児童が書いた振り返りの内容を把握することで、活動の教育的成果を検証している。

学校全体の様子を見ると、子どもたちは豊南の自然に積極的にかかわることができている。高学年で、低・中学年で学習を基盤にして、日本や世界の環境問題へと視野を広げた活動や学びにつなげていくことが、今後の課題であろう。

- ⑤ ESD の推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。 ※チェック事項 2-2 に対応

毎年4月に開催されるたけのこフェスタには、保護者をはじめ、地域の住民や学校のOBも参加している。その場で児童による緑化活動の募金の呼びかけなどもあり、一定の発信効果があると言えるだろう。学校の果樹園では、「家族の木」の取り組みとして児童の家族が自発的に木の手入れをしており、学校の取り組みにこたえてくれている。

そのほか、学校での活動や成果は、逐次学校通信として保護者に情報提供しているほか、開設しているホームページでも閲覧できるようになっている。

- ⑥ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成（地域コミュニティ、大学、ESD活動支援センター、ESDコンソーシアムとの連携など）
（※チェック事項 2-3 に対応）

5年生、6年生が、地域の福祉施設・福祉村の施設利用者で構成される「福祉村キャラバン」で福祉村の方たちと交流した。

来校した福祉村の方々により、施設の紹介や、福祉の意義について説明があったほか、児童は車椅子体験や目隠し歩行体験をしたり、太鼓演奏の交流をしたりした。

その他、環境政策課による「生ごみメタンガス発酵実験」の出前講座を受けたり、東三河農林水産事務所の協力を得て校内でシイタケ栽培を行うなどした。

- ⑦ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成

※チェック事項 2-4 に対応

豊橋市内のユネスコスクールとは常に情報交換ができる状況にあるので、必要があれば情報提供を求めることができた。

特に、同じブロックの富士見小学校、高根小学校、高豊中学校とは強い連携があり、発行される学年通信の交換などをしていたので、児童が現在どのような活動をしているのか現場での様子を知ることができ、活動を実践する際の参考にすることもできた。

- ⑧ ユネスコスクールの活動による効果について、特筆すべき（特に強調したい）内容（例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化

※チェック事項 2-5 に対応

学校に隣接する竹林や森林、果樹園や水田があることで、地域の自然環境を考えるさまざまな活動を企画できた。PTA や地域の方の協力も得やすかった。

また、児童は竹林を使って竹の工作をしたり、となみっ子忍者村のような、そこを会場にした発想豊かなイベントを企画したりした。竹林・森林を使ったたてわり班での活動も多いので、小さい子の面倒を見ることや、年上の子と交流することを通してコミュニケーションの力も向上していると思われる。自由な発想で、積極的に身近な自然を楽しむことができた。

（3）平成 30 年度の活動計画

今後も学校に隣接する自然を活用し、「豊かな情操とたくましい体を養い、自分の考えで実践できる子」を育てていく。

具体的には、たけのこフェスタ、忍者村などの行事、家族の木の整備など、行事、特別活動などで身近な自然を積極的に活用していく。また、ふだんの授業も ESD の理念をふまえながら進める。特に総合的な学習では、竹林や森林、水田などを軸にして展開する授業が多いので、こうした資源を十分活用できるよう配慮する。

その他、福祉村、農林水産事務所などの外部団体の協力も求めていく。

以上のように、平成 30 年度の教育活動は本年度の活動を踏襲する形で進めていく。